

扁桃腺炎と腎疾患について

太田じんクリニック

高谷 徹 先生

のどの奥にある扁桃腺と体の腰部分にある腎臓とは、離れた場所にあるにもかかわらず、密接に関係しています。風邪をひいたり、のどが腫れた後に血尿が出たという経験をしたことのある人はいないでしょうか。この症状の多くは急性糸球体腎炎という疾患です。これは、溶連菌とこれに対する抗体が結びつき腎臓の糸球体に蓄積した腎炎です。症状としては、発熱、咽頭痛などの風邪の症状が出現してから1～2週間後に血尿、高血圧、^{むくみ}浮腫などが出現します。重症例では入院治療が必要になります。多くの場合一過性で完治するため問題はありません。

ただし、扁桃腺炎と重要なかわりを持つ腎疾患があります。それはIgA腎症と呼ばれる慢性糸球体腎炎です。IgA腎症は当初、良性とみなされていたため特別な治療は不要と考えられていました。しかし、近年、IgA腎症の中に末期腎不全に進行し透析導入となる予後の悪いものがあることが分かってきました。全国で毎年1万人の慢性糸球体腎炎の患者さんが、腎機能廃絶のため透析導入となっています。IgA腎症は慢性糸球体腎炎の半数以上を占め、日本人に多い腎臓病とされています。IgAとは主に扁桃腺で産生される抗体(免疫グロブリン)です。現在、研究が進み、扁桃腺より産生された異常な糖鎖不全型IgAが抗原(細菌やウイルス)と結びつき、それが腎臓の糸球体というところに沈着するために腎炎を引き起こすということが分かってきました。そのため、扁桃腺摘出術とステロイドの併用が試みられ、良好な成績が得られています。

IgA腎症の難点は先に紹介した急性糸球体腎炎のような自覚症状に乏しく、健康診断で血尿や蛋白尿でたまたま発見されることが多いということです。また、多くの患者さんがここで放置してしまいます。治療していれば悪化しない人が、透析になることは誠に残念です。ぜひとも定期健診の受診と、異常があったときの早めの専門医への受診をお勧めします。